

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172900280
法人名	特定非営利活動法人 ほのぼの朝日ネットワーク
事業所名	ほのぼの朝日の家
訪問調査日	平成19年7月28日
評価確定日	平成19年8月22日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

作成日 2007年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2172900280
法人名	特定非営利活動法人 ほのぼの朝日ネットワーク
事業所名	グループホームほのぼの朝日の家
所在地	岐阜県高山市朝日町浅井736番地 (電話) 0577-55-3488

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年7月28日	評価確定日	平成19年8月22日

【情報提供票より】(19年 7月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 6 人
職員数	10 人 常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造板葺平屋造り 1階建ての 1階 ~ 中2階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,000~23,000 円	その他の経費(月額)	日用品代等実費 円	
敷金	有(円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000 円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1200円			

(4) 利用者の概要(7月4日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	81 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高山市国民健康保険朝日診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域住民の村づくり運動から立ち上がったNPOが母体であり、村所有の板葺屋根の重厚な民家を利用している。多機能性を活かした支援や、地域に密着し、支えあい、地域の一員として生活するサービスが提供されている。医療関係者の協力の下24時間の連絡体制による見取りを行い、職員は70歳台の人等、それぞれの特性を生かして理念の下全員が『目を離さないケア』を行っている。職員が利用者になったの実体験による学習や、本人希望による文化祭への出演、10年会えなかった人への個別外出支援等、生きがいを感じれる支援が行われている。代表者は(管理者)中長期的目標を持ち職員と共に更なるサービスの向上を目指している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に対しては具体的改善策を、ケア会議で話し合い取り組んだ。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価にも全員で取り組み、代表者(管理者)職員は評価の意義を理解し、常に改善点を見つけ(小さな事にも)自己評価し、更なる向上を目指している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回運営推進会議を持ちサービス状況や、短期入所の例などを報告し、更なるホームの理解への取り組みを行なっている。会議での話し合いの中で運営推進会議委員に、グループホームの多機能性の理解を得ることが出来た。市町村へ通所介護施設設置への相談、用地の問題(国有地)、多機能性としての通所介護利用など、常に連絡を持ちサービス内容や質の向上を目指している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月に1回ずつ家族へ職員が個別に健康、暮らし、金銭管理など定期的に報告している。『NPOほのぼの朝日ネットワーク』も同封し、その中にホーム全体の行事のみならず健康や日常生活に関するちょっとしたアドバイスも書き、家族に多くの情報を伝えている。『苦情や意見を言ってください』と家族への便りに書き、又は電話連絡の折などに聞き、積極的に意見を取り込んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 買い物に行けば住民の声かけや、徒歩15分位にある自宅へ毎朝行く為に外出した利用者には近所からの報告、どすこい祭りや、祭事への献酒、文化祭、子ども会の花壇管理、用水掃除など地域行事のみならず、地域の一員として必要とされる活動も引き、孤立することなく地域の一員として参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民から立ち上がったNPOを母体とするグループホームである為、地域の中に根付いたサービスを提供し、住み慣れた地域での生活を続けていける理念を作り上げている。	○	さらに理念を理解していただく為に、グループホームとしてのパンフレットや案内書に明示し、地域以外にもこのホームのよさを伝えてほしい。またホーム側からも語句の検討もされるという事なので期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はその人になって考え、その時々に対応の仕方を変え、生きがいを、楽しみを、感じられる支援をしている。全員で話し合い理念の実現に向けて(利用者が希望する地域文化祭出演の為に、職員がキーボードによる練習参加をする等)取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物に行けば住民の声かけや、徒歩15分位にある自宅へ毎朝行く為に外出した利用者には近所からの報告、どすこい祭りや、祭事への献酒、文化祭、子ども会の花壇管理、用水掃除など地域行事のみならず、地域の一員として必要とされる活動も行い、孤立することなく地域の一員として参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にも全員で取り組み、前回の評価に対しては具体的改善策を話し合い取り組んだ。代表者(管理者)職員は評価の意義を理解し、常に改善点を見つけ(小さな事にも)自己評価し、更なる向上を目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を持ちサービス状況や、短期入所の例などを報告し、更なるホームの理解を得ている。運営推進会議で話し合いを行い、参加メンバーに地域密着型としての多機能性の理解と、これから取り組みたい事への協力を得ることが出来た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ通所介護施設設置への相談、用地の問題(国有地)、多機能性としての通所介護利用など、常に連絡を持ちサービス内容や質の向上を目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回ずつ家族へ職員が個別に健康、暮らし、金銭管理など定期的に報告している。『NPO法人ほのぼの朝日ネットワークにぎわしひろば(ユーモアあふれる)』も同封し、その中にホーム全体の行事のみならず健康や日常生活に関するちょっとしたアドバイスも書き、家族に多くの情報を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見を言って頂けるように家族への便りに書き、又は面会時、電話連絡の折などに聞き、積極的に意見を取り込んでいる。	○	代表者は更なる意見の取り込みや家族の訪問を増やせる手段として、家族会の設置も考慮中である。又重要事項説明書にも公的機関の明示等もされ、より多くの機会がある事を家族に知らせて欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員への引継ぎ時には、代表者(管理者)が利用者から常時離れないようにして、慣れていただくまでの橋渡し役となり混乱が無いようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は月に1回程度有、外部研修の場合には研修後会議で皆に伝達している。また、内部研修については職員が利用者になって1日を過ごし、実体験によりケアの方法を皆で考え実際に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会飛騨支部との交流や、同業者のみならず施設等との交流の機会も持っている。利用者と一緒に施設入所の友人を訪問し、アクティビティのヒントを得たり相互研修の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	宅老所による馴染みながらの利用、入居以前の施設からの詳細な情報収集による生活歴を活かした個別支援、理念にもとづく、その人らしく自由を尊重した支援等により混乱無く利用につなげている。又家族とよく相談しながら支援を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が自分の困り事や失敗やぐちを利用者に相談し、人生の先輩としての意見をもらったり、郷土料理(朴葉寿司)の作り方を教えてもらったりしている。出来る所は自分で頂き、(入浴時給湯の準備など)精神的に落ち込まれた時は抱きしめたりしてスキンシップを図り、言葉で表現出来無い『よりそう心』を利用者に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを言葉のまま介護記録に記述することにより、その時の状況が何を意味しているのかを感じ取り、希望や意向の把握に役立てている。利用者の意見を聞いて入浴の順番を決めたり、毎日徒歩15分の自宅へ草取りと仏壇のお供えに行きたい人には、その人の暮らしの希望に添えるように近隣との連絡をしながら行けるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、ホーム来訪時に意見を聞き介護計画に反映させている。利用者には、わかりやすい言葉や表現で話し合いを行い本人の意向を聞いている。訪問回数の少ない家族には電話等により連絡をよくとり説明と了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については毎日の達成度を%で表し介護記録に記載し、月1回行なわれるケア会議でモニタリング結果を話し合い見直しを行なっている。変化が生じた場合や緊急時にはその都度見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の希望により多機能性を活かしてのホームでの短期入所、入院時の付き添い、終末期への見取り、通院介助を行っている。	○	地域から通所介護の要望があり、希望に向けてホームから市へ要望を出している。出来るだけ早い実現が出来るように市側の積極的支援・協力を希望したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは24時間の連絡体制があり、終末期への支援も行なえる。歯科、眼科、皮膚科、入院等ホームの支援の下適切な医療受診が行なわれ、かかりつけ医との連絡も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方針は、看護師作成のマニュアルがあり医師と24時間連携が取れている。家族との話し合い、本人の希望(入居時に希望され、眠るように他界された)、職員の受け入れ体制の確認など全員で方針を共有している。眠るように他界された方もあることから同意書をどの時点で戴くのか考慮中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	写真を便りに載せる時や、居間へ掲示する場合に家族の同意をもらうなど、個人情報への配慮をしている。入室時の声かけ、脱衣場のパーティション、物を借りる時への所有者への声かけ等、『ちょっと履物かしてね』一人ひとりの誇りやプライバシーへの配慮が自然に行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間の遅い人には無理に起こさず、その人のペースを大切に、ゆっくり起床してもらっている。一日中窓を閉めカーテンを引いておきたい人には、時々の換気はしても天気に関わらずカーテンを一日中引いておき、その人の希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	飲み物は好きな物(お茶、牛乳、青汁、ヤクルト、コーヒー、紅茶、ジュース等)を選んで楽しみながらの水分摂取に気をつけている。食事は自分たちで作った野菜、米を使い、毎回だし作りから行い、利用者の出来る力を活かして食事作りや、楽しく話題を提供して食事を職員が共にし、1食7品1日30品目の食品摂取に気をつけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番を利用者の話し合いの中で決めカレンダーに書き、希望の表出への支援を行なっている。毎日入浴希望の人には夜間でも希望あれば支援をして楽しみをかなえている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	米作り、野菜作りを支援しながら行い、毎日の食事作り、本人希望による文化祭への出演(練習に職員もキーボードで参加)、いつでも歌が聞けるようにカセットの用意、10年あえなかった親族への訪問支援等、理念にあるように『自分らしく生きがいを持って楽しく暮らしたい』が実践されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望の服を探して見つかるまでの外出支援、自宅の草取りの為の外出(近隣の見守り有)、どすこい祭り参加、天気の良い日は毎日の外出がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	代表者、職員全員が鍵をかける事への弊害をよく理解し、又近隣の見守りなど地域ぐるみの支援が受けられる。職員は常に目を離さないケアを目指し、裏は山につながっていてもセンサーなど使わずに鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災の避難訓練、消火器の使い方訓練を行い、その時の反省を会議で取りまとめ次回への改善を行なっている。各部屋にヘルメットや、防火バケツが置かれ常に意識できるようにしてある。防火訓練はホームとしては行ったが、地域を巻き込んだ訓練は行っていない。	○	災害に対して地域への協力を呼びかけ訓練も一緒に行なう等、朝日地区全体としての支援体制が得られるように働きかけをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは同じNPOの子育て支援の栄養士に時々見てもらい、食事量水分量は介護記録に職員が記録し看護師(保健師)である職員が確認している。市の老人健診を利用して健康診断を受け、減塩食など必要な時には看護師を通して医療連携が図れる仕組みがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所には春慶塗りの古い水屋(食器棚)、大きな梁が通った重厚な広い居間には、掛け軸、鏡台、コタツ、古いラジオ、神棚があり、裏山から来る風が広い居間を通り抜け風鈴を鳴らしていた。出窓にはよしずが立てかけられ暑さと日光を避ける工夫があった。庭には新しい麦殻の上で鶏が飼われ、花壇や芝生や石が打ち水で輝いていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から持ってきた筆筒や鏡台、家族の写真、カーテンや椅子、色紙やポスター、それぞれが個人の好みを活かして個性あふれる居室作りが支援されている。		